

学生記者の

多摩ぶらり散歩 8

稲城

中央大学の周辺には、さまざまな史跡をはじめ、豊かな自然やお楽しみスポットが数多くある。でも、意外と気づいていなかったり、知っていてもなかなか行くチャンスがなくて、いつも素通りという人が多いのではないだろうか。そこで学生記者がお薦めスポットを紹介する。題して『学生記者の多摩ぶらり散歩』。はたして、何やら新発見がありますでしょうか。

多摩丘陵の豊かな緑と多摩川や三沢川、大丸用などの自然環境に恵まれた稲城市。丘陵部には原始古代の遺跡があり、数多くの歴史に触れ合うこともできる。今回は、「自然と歴史の町・稲城」の名所を巡った。

梅林が名所の妙覚寺 『稲城かるた』の石版

京王線の京王よみうりランド駅を下車し改札を抜け、10分ほど歩くと、妙覚寺がある。寺の入り口には、稲城市の名所の名を模してつくられた『稲城かるた』（いなぎ郷土かるた）が書かれた石版がある。この稲城かるたを詠みながら名所を訪ねることも、稲城市巡りの楽しみの一つである。

妙覚寺の稲城かるたに「妙覚寺観音様と梅林」



妙覚寺入り口

とあるように、妙覚寺は梅の名所で知られる。また6月ごろには、紫陽花を楽しむことができる。

記者が訪れた11月下旬は、紅葉が真っ盛りで、赤や黄の色鮮やかな景色が眼前に広がっていた。石版の脇の急な石段を上っていくと、古びた境内にいた。妙覚寺は室町時代の終わりに、足利善晴候によって開山され、鎌倉の臨済宗大本山建長寺の末寺として建立された。しかし寛政元年に焼失し、現在の建物は寛政8年（1796年）に再建された。その隣には、嘉永7年（1845年）に学業指導の功績と徳を称えて筆子代表49名によって建立された筆塚があった。

威光寺の洞窟弁財天 金洗い井戸でご利益も

続いて、ランド通りとよばれる急な坂をのぼり、威光寺に向かった。威光寺は稲城かるたで「威光寺の山の洞窟弁財天」と詠まれ、新東京百景に選ばれた弁天洞窟がある。その昔、威光寺周辺の小沢峰山には大蛇が棲んでいるという言い伝えがあつて、里人がある夜、大蛇が弁財天と化す夢をみて、それを頼りに洞窟を掘ったところ、中に弁財天を見つけ、大黒天、毘沙門天を加え三福神として祀ったことから「弁天洞窟」と名がついたという。

受付で、拝観料300円を支払い、ロウソクと威光寺オリジナルのマッチを受け取り、洞窟に



弁天洞窟

入ってみた。洞窟の中は照明が一切無く、ロウソクの薄明かりを頼りに奥へと進んで行った。洞窟は全長65m、広さ660㎡あり、歩きながら白蛇、宇賀神、龍神など23体の石仏を目にすることができた。

また、奥にある「金洗いの井戸」で紙幣や硬貨を洗うと、ご利益があるというのを聞き、記者も硬貨を洗い、ご利益を期待して威光寺を後にした。

急坂の上で市街地一望 小沢城址で往時を偲ぶ

ここから、駅に戻り、今度は「巨人への道」という案内板に従って、急な階段を上がっていった。階段は283段もあり、途中で息があがつてくる。ふと立ち止まって顔を上げると、稲城の市街地はもとより、多摩川を越え、その先の北多摩一帯を一望することができた。運が良ければ、男体山や筑波山が見えることもある。

階段を上りきった所に、「読売ジャイアンツ球場」がある。球場の横を通る「よみうりV通り」と呼ばれる道を下ると、右手に多摩自然遊歩道があらわれた。

草木が生い茂る道を歩いていくと、丘陵地形が天然の要害となった小沢城址に着いた。城下は鎌倉道や多摩川の広い低地や河原があったことから、鎌倉時

代からたびたび合戦の舞台になったという。城の形跡として、空堀、物見台、馬場などと思わせるものがあり、往時を偲んだ。



巨人への道から見た稲城市



穴澤天神社の鳥居



小沢城址

わる武蔵流の指定文化財、江戸の里神楽が奉奏される。

また、三頭の獅子と天狗が、神社入り口の石段を舞いながら勇壮に上る市指定の獅子舞が奉納される。このことが、稲城かるたには、「穴沢の社に江戸の里神楽」と詠われている。

本堂でお参りをしたあと、北側の石段を下っていった。その先には、「東京の名湧水」に指定されている湧き水が出ている場所がある。記者が歩

小沢城址から天神坂という険しい山道を下り、穴澤天神社へと向かった。少彦名の大神をお祀りした社で、毎年8月25日に行われる例大祭では、神職山本家に伝

**江戸里神楽を奉納
東京の名湧水も**

いたその日も、ペットボトルを両手いっぱい抱えた人々が、水を汲んでいた。記者も渴いたのどを湧き水でうるおし、身を清めて、稲城市の自然と歴史巡りを締めくくった。

(学生記者 藤森皓子 文学部1年)



穴澤天神社本堂